

# 令和3年度 バウム 事業報告書

## 1 総括

令和3年度も新型コロナウイルスの感染症への対策が最優先の課題であったが、基本的な感染対策の実施もあり、利用者、職員に感染者はなかったうえ、利用自粛も殆ど見られず、事業活動に大きな影響は感じられなかった。

令和2年度は年度途中の施設長交代などの管理体制の変更があり、バウムにとって大きな転換期となった年度であった。様々な変化を不安に感じる利用者も少なくなく、管理体制変更後暫くは、落ち着かない雰囲気を利用者間や利用者と職員のトラブルも多かったが、徐々に安定化し、令和3年度前半には活動も安定してきた。また2年度不足していた職員体制も計画通り整備できたほか、職員のスキルも全般的に向上しており、年間を通して安定した事業活動ができたと感じている。3年度は2年度に変革した支援の基本方針や手法、事業管理方法、職員体制など様々な事項を軌道に乗せる年であったが、概ね計画通り事業が実施できた。

## 2 事業概要

1) 施設名	バウム		
2) 事業種別	就労継続支援B型		
3) 所在地	東京都小平市学園西町三丁目24番18号		
4) 経営主体	社会福祉法人 未来		
5) 利用定員	20名		
6) 利用現員	26名 (令和4年3月31日現在)		
7) 法人認可年月日	平成14年12月11日		
8) 事業開始年月日	平成23年 4月 1日		
9) 職員	管理者	1名	
	サービス管理責任者	1名	
	生活支援員	3名	(常勤換算 1.6)
	職業指導員	2名	(常勤換算 2.0)
	目標工賃達成指導員	1名	(常勤換算 1.0)

## 3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現の支援
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
- 3) 安心と希望の持てる生活

## 4 基本方針

- 1) 福祉就労の充実を図り、作業を通して、生活能力、就業能力、社会性の向上等基本的事項の支援を行う。
- 2) 一般就労に必要な生活リズムの構築、生活能力、社会性、就業能力の向上等基本的事項の支援を行う。

## 5 利用者の受け入れ基準

- 1) 作業や訓練等に対して意欲的である。

- 2) 自力での通所ができる。(公共交通機関の利用が可能である。)
- 3) 反社会的、非社会的行動がない。
- 4) 衛生管理ができる。
- 5) 身辺自立している。

## 6 実施事業（活動内容）

### 1) 作業

- (1) ダイレクトメール作業
- (2) 清掃作業（公園清掃、アパート清掃）
- (3) その他受注作業

### 2) 行事

- |     |                      |
|-----|----------------------|
| 4月  | 事業所名で食事会、いちご狩り、ビンゴ大会 |
| 10月 | 一泊旅行（栃木県）            |
| 12月 | ボウリング大会              |

### 3) その他の活動

毎朝、事業所周辺の清掃（地域との関係作りや社会奉仕の意識の向上を図った。）

## 7 日 課

- |       |        |
|-------|--------|
| 8：45  | 体操・朝礼  |
| 9：00  | 作業     |
| 10：00 | 休憩     |
| 10：05 | 作業     |
| 11：00 | 休憩     |
| 11：05 | 作業     |
| 12：00 | 昼食・休憩  |
| 13：00 | 作業     |
| 14：00 | 休憩     |
| 14：05 | 作業     |
| 15：00 | 休憩     |
| 15：05 | 作業     |
| 16：00 | 休憩     |
| 16：05 | 作業・清掃  |
| 16：55 | 片づけ・終礼 |
| 17：00 | 退勤     |

※ 毎週水曜日は16：00で終了（事業所別職員会議の為）

※ 毎月第2火曜日は12：00で終了（合同職員会議の為）

## 8 重点課題・目標

### 1) 活動

- (1) 利用者一人ひとりにあつた福祉就労を通じての社会参加の促進

#### ① 通所の安定化

面談等により、精神の安定を図り、安定した通所により生活リズムの構築を支援する。

#### 【成果と課題】

日常の活動の中で、必要に応じて面談を行い、精神的に不安的になった際は話を聴く、助言を

行うなどの対応を行った。全般的に通所は安定しており、80%の通所率となった。入院、自宅療養で長期休みの利用者が2名いたが、定期的に連絡を行い、健康面や生活状況の確認を行った。入院の1名は6か月の入院生活の後、12月から通所を再開したが、体調不良のため、3月末までに数回のみ利用となり通所は安定しなかった。自宅療養の1名は通所再開のめどはたっていない。

② やりがいを感じる作業の実施

作業等を通じて自己肯定感を得られるように支援する。

(達成感、仲間意識や帰属意識の醸成、居場所としての役割、責任感の醸成など)

【成果と課題】

全般的には日々の作業の継続により集中力や持続力は身につけており、概ね安定して作業が行えていることが多いが、周期的に気持ちが不安定になることや、体調の悪化により、意欲や集中力が低下しがちな利用者も少なくない。その都度話を聴くことや、静養することで対応し、個々の状況に応じて作業が継続できた。また、施設外実習に計5名延べ111名の利用者が参加したが、経験により自信につながったという声が多かった。

③ 社会人、職業人としての成長の支援

作業や活動を通じて、社会性、協調性、ルールの順守などの必要性を伝えていく。

不安感や感情コントロールが苦手なことで、協調性や社会的なルールの順守に課題を抱えている利用者も多い。また、事業所側の姿勢も徹底さを欠き、昨年度は利用者間、また職員とのトラブルも多く、集団としてまとまらない状況もあった。昨年度後半から、非協力的な態度や社会のルールを守らないことへ毅然とした姿勢で臨むことで、時間の経過とともに徐々に改善がみられた。まだ課題はあるもののトラブルの頻度は大幅に減少しており、集団としてのまとまりが徐々についてきている。

④ 工賃

作業の安定供給、新規作業の開拓等により目標工賃を以下のように設定する。

【成果と課題】

	令和2年度 実績	令和3年度 目標	令和3年度 実績
時給	190 円	190 円	205 円
日給	1,107 円	1,100 円	1,185 円
月給	20,290 円	20,000 円	20,647 円
最高月給	40,220 円	31,000 円	42,750 円

(2) 就労移行支援へのステップアップの支援

本人の希望や日常の評価から、ステップアップ対象者を選抜し、就労移行支援事業所での実習を行う。

【成果と課題】

令和3年4月1日に1名が就労移行支援事業所へステップアップを行った。また、他2名が候補に挙げたが、新型コロナウイルス感染症や環境の変化への不安感、また、社会性における課題などでステップアップには至っていない。その他、就労継続支援A型事業所のみくまの利用者募集に2名が応募し内定を得たが、作業内容等が希望と合致せず、本人が辞退した。1月には他の1名のみくまで実習を行い、令和4年4月から利用契約で通所することとなった。

## 2) 人材育成

- (1) 職員の連携強化（情報共有・相互補完など）
- (2) 中核職員の育成
  - ①利用者支援スキルの向上
  - ②福祉制度と給付費請求など実務の学習
  - ③経理知識の向上

### 【成果と課題】

- (1) 年度当初、周囲に伝達せずに持ち場を離れる、業務上必要な事項を周囲に伝達していない等、一部情報共有が不足する場面はあったが、徐々に改善しており、職員の連携協働体制もよく取れていた。
- (2) 日々のミーティングでの意見交換や支援現場での指導により、全般的なスキルの向上がみられた。また、ミーティングによる支援方針の統一も概ねできていた。福祉制度や経理、労務管理について学習会を実施するとともに、給付費請求ソフトや会計ソフトの入力など実務を通じて、知識やスキルの向上が図られた。

## 3) 経営管理

- (1) 訓練等給付費の安定確保
  - ①1日平均利用者19.5人（23人在籍、利用率85%）を目標とする。  
（令和3年1月末実績—1日平均利用者数19.7人。24人在籍、通所率82.2%。）
  - ②利用者確保のため、他事業所、就労支援センター及び特別支援学校などからの実習を積極的に受け入れ、利用につながるよう働きかけを行う。
  - ③就労移行の期限超過の利用者の受け入れを推進し、就労へも再チャレンジを支援すると共に、利用者の確保を図る。

### 【成果と課題】

- ① 新規利用者が2名あり、1日平均利用者数は20.2名（26名在籍、出勤率80%）となり計画をやや上回った。
- ② <令和3年度実績>

見学者	13名（支援機関紹介10名）
内実習者	8名
内利用契約者	3名（内2名9月から利用開始、内1名4年度4月利用開始）
- ③ 就労移行支援事業の期限超過者からの利用相談はなかった。

## (2) コスト削減

節電節水に取り組む他、無駄な支出を抑え、コスト削減を図る。

### 【成果と課題】

使用していない場所の電気の消し忘れ等はたまに見られ、節電への意識は徹底さを欠いた。備品購入の際は伺い書の提出を徹底し、無駄な備品の購入のないよう努めた。昨年度に比べて消耗品費支出は減額したが、水道光熱費は値上げもあり増額した。

## (3) 計画的な予算執行

月次試算分析を丁寧に行い経営状態の把握に努める。

### 【成果と課題】

月次試算の分析を丁寧实施了ほか、緊急的な支出もなく、計画的に予算の執行ができた。

(4) 経営的視点の共有

毎月の職員会議で月次試算報告を行うことで、事業所の財務状況について職員の理解を深め、経営的視点の共有を図る。

【成果と課題】

計画通り報告を行い、大まかな経営状態は全体的に把握できた。計算書類の構造については2名に対して学習会を実施し、知識の習得が進んだ。

9 その他の成果と課題

- 1) 8月に新型コロナウイルス、12月にインフルエンザのワクチン集団接種を実施し、感染症予防に努めた。1月に新型コロナウイルス感染症の感染者が1名あったが、施設内での感染ではなく、施設内で感染症の流行は起きなかった。

10 事故等報告

- 1) 4月 公園清掃の作業中にパニックになった利用者の行動を職員が力づくで制止した場面を見た第三者から行政機関に虐待通報があった。行政機関の調査があったが、当該利用者が興奮して他の利用者の乗った車いすを強引に押そうとしたのを、安全の為に止めた行動であり、当該利用者も自分の行動を反省していたことから、虐待と認定はされなかった。当該利用者の特性の把握に基づく事前の予防措置などの徹底を行う旨の改善計画書を行政機関に提出した。

11 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日
- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間  
(2) 開所時間 午前8時45分～午後5時  
(3) 年間延開所日数 242日間 (前年度 243日)  
(4) 平均活動時間 7時間

12 利用状況

- 1) 利用者延人数 4,898人 (前年度4,708人)
- 2) 1日平均利用人数 20.2人 (前年度19.4人)
- 3) 施設外就労等実人数 15人 (前年度10人)
- 4) 施設外就労等延人数 111人 (前年度135人)
- 5) 体験実習受入実人数 8人 (前年度4人)
- 6) 体験実習受入延人数 56人 (前年度15人)
- 7) 1日平均実習受入人数 0.23人 (前年度0.06人)

13 利用者状況 (令和4年3月31日現在)

- 1) 年齢  
20歳未満 0名  
20歳以上30歳未満 11名  
30歳以上40歳未満 9名  
40歳以上50歳未満 5名  
50歳以上60歳未満 1名

## 2) 障害の状況

手帳不所持	2名	
愛の手帳3度	5名	
愛の手帳4度	11名	(内身障手帳所持 1名)
身体障害者手帳1級	1名	
身体障害者手帳3級	3名	(内精神手帳所持 1名)
身体障害者手帳5級	1名	(内愛の手帳所持 1名)
精神保健手帳2級	5名	(内身障手帳所持 1名)

## 1.4 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

## 1.5 防災

災害時避難訓練を年2回実施した。3月に参加を予定していた当法人と小平手をつなぐ親の会との共催の防災訓練については、新型コロナウイルス感染防止のため規模を縮小した形での実施となり、今年度は不参加となった。